

洋書輸入協会会報

VOL. 17
NO. 5

(通巻193号) 昭和58年 5月

理事会報告

3月28日(月)

(一) 文教委員会報告

3月22日(火)学士会館において開催された田保橋彬氏(文部省学術国際局情報図書館課長)の講演「学術情報システムについて」には、40社から105名の参加者のあったことが報告された。

(二) ダイレクトリイ委員会報告

三校が完了したことが報告され、1,000部印刷することが承認された。年度内に印刷屋に支払うことについては、委員長と事務局長とに一任された。頒価は下記のとおりに決定された。会員¥2,000(100部以上は¥1,700)、会員外¥4,000(国内)、海外¥5,000(郵便料こみ)。

(三) 雑誌委員会報告

3月22日に開催された委員会の Gordon and Breach 社についての報告・提案が承認された。

(四) 企画渉外委員会報告

会員に対するアンケートに対して既に42社から回答がよせられたことが報告された。

(五) 総務委員会報告

3月18日に開催された総務委員会で決定された58年度予算案について説明があり、承認され、理事会の案として総会に提出することとなった。

(六) 関西支部報告

関西支部長丹羽正之氏(緑書房)から最近の関西地方の状況について報告された。

(七) その他。

4月11日(月)

(一) 3月分および57年度収支計算・予算対比表 総務委員会の報告により承認された。

(二) 58年度関西支部予算案

支部への還元金を85%に増額することとなった。

(三) Mr. Martin B. Gordon との会見

4月18日(月)に予定されている Gordon and Breach 社の Mr. Gordon との話合いについて打ち合わせしたが、不十分なため、4月13日(木)改めてこの件について討議することとなった。

(四) 関西書店の件

3月25日大阪地方裁判所で同社の破産が宣告されたのに伴い、同社の退会が承認された。

(五) その他。

4月18日(月)

Mr. Martin B. Gordon との話合い

4月18日2時から4時頃まで同氏との話合いが竹橋会館で開催された。双方での隔意ない意見の交換が行われ、合意に達した。その後の理事会で、この合意点は文書として、Mr Gordon のサインをもらうこととし、その文書案が承認された。

理事会報告.....	1	おしらせ.....	4	来日外人名簿.....	5
学術情報システム.....	2	海外ニュース.....	5		
書籍展示会のおしらせ.....	4	総代理店ご案内.....	5	広 告.....	6

これからの学術情報流通の在り方 I

(講演 昭和58年3月22日(火) 於：学士会館)

日本学術振興会総務部長 田保橋 彬
(前 文部省 学術国際局情報図書館課長)

一. はじめに

ご紹介に預りました田保橋です。本日お招き頂いたのはどういう事かと、私も考えさせて頂きました。どうも雲行きは良くない、という風に感じている次第です。例えば、国立学校では、教官当り積算校費は一率減、図書購入費も何パーセントか減、私学の経常費の補助金も大幅に落ち込んでいる。加えて学術情報システムは、資源の共有化と称し、相互貸借をやればよい、そして、雑誌を集中してしまう、こういう様な相談をしているらしい。これはどうも業界にとっては非常に重大な関心を抱かざるを得ない、この際先行きがどうなるのかとお考えではないかと推察をして参った訳です。

二. 情報図書館課の業務

私は、情報図書館課に籍を置いて、そろそろ3年になりますので本職はそのうちクビになるだろう、と覚悟している訳です。情報図書館課と申しまして非常に多岐に渡って仕事をしています、図書館の仕事ばかりをやっている訳ではありません。情報図書館課という名称は、学術情報と大学図書館という言葉を結合させたものですが、現実には図書館関係の行政事務は5分の1位です。この外には国立大学に置かれている電子計算機の管理を一手にやっている訳で、年間国立大学等で払っている電子計算機の借料は約140億円になっています。次に研究支援体制に関することが主たる仕事の一つで、その中で施設整備等も行なっている訳です。皆様方が各国立大学の医学部等へ行かれた場合に、5、6千平方メートルの大きな建物が建っているのをご覧になると思います。これは医学の研究に必須な動物実験施設です。これらを建てるのも、我々の仕事の一つです。

それから又、放射性同位元素の施設も自然科学系の大学学部があり、これらの整備も担当業務です。更には今最も問題になっています食糧資源の問題の解決の一助としまして大学が種々保持している系統的な種の保存に関することも行っています。各大学において植物、動物、

微生物等にわたって大体19万系統位をそれぞれ保存維持をしている訳です。これは、21世紀の食糧資源は、現在の状況では当然行き詰って来る、とすればこれらの系統を先端的な組換えDNA技術とか、細胞融合組織培養とかいう技術を駆使して、より収穫量の多い、耐寒性等のある品種を作り出して行かないと人類は滅亡してしまうので、このような資源の確保ということも大きな問題となって来ます。

更に出版の助成ということも行なっており、学術的な価値が高く市場性が薄い図書につきましても補助をしています。学会誌等につきましても補助をしており、特に国際交流に役に立つ様な学術雑誌、特に英文誌については相当額の補助をしています。例えば化学関係では一誌当り4,000万円の補助をしています。

それから又、最近国際協力という観点から生物学、所謂バイオサイエンスの面での協力が多くなって来まして、その中で細胞とか遺伝子のデータバンクという様な問題も国際的観点から、又国内的な研究者の連携の中から生まれて来ています。更には一般的な学術情報のデータベースの作成等々非常に多岐にわたっており、これらの行政事務の一環として大学図書館を担当している訳です。大学図書館といたしましても、従来から考えると図書館の図書も、先生方の研究にとって必須のものとして位置づけられてきたと思います。従来ですと文科系の先生方は図書、理科系の先生方は顕微鏡とフラスコで充分という時代があり、当時の図書のウエイトと現段階における図書のウエイトとは、価値においては変わりませんが、金額面では、その他の機器、装置の出現により、相対的に下がって来ているといえるのではないかと思います。皆様方が各大学にいらっしゃったら分かります様に、色々なセンターが出来上がっています。例えば工作センターであるとか、分析センターであるとか、電子顕微鏡のセンターであるとか、大きくは情報処理センターであるとか、大型計算機センター等々の共同利用の

支援組織が出来上がっています。大学図書館もその一環として位置づけられて来ており、端的に申せば研究支援組織の中の仲間が増えた、という事が言えようかと思えます。これらの仲間の増えた段階で物を考える場合に、先程言いました様に予算的な位置付け、全体的な位置付けはどうであるかと言いますと、大学が購入しております図書、雑誌の経費は通常の経費からの購入も含めて56年度末で約443億になります。これは国公私立大学の図書館資料の購入費で、これは当然雑誌も新聞も含んでいます。その中で洋書は一体どれ位の割合を占めるかは定かに統計を取っていませんが、おおよそ金額の40%から45%位が所謂洋書関係ではないだろうかと思います。それらの数字は近年若干伸びて来た訳ですが、57年度以降はピタッと止まったのではないかと、というご指摘を受ける訳です。具体的な問題として58年度予算で考えますと、先程申し上げました様に国立大学の経費は対前年度2.8%位伸びております。ところがその中を仔細に見ますと、一番経費的に大きい、所謂研究費と、学生当りの校費は、おおよそ対前年度1%位減になっています。又、設備費は16%から17%減になっています。では図書館はどうかというと私共の方から指定して各大学へ配布する予算も、約10%近く減になっています。これは58年度予算がマイナスシーリングという形で位置付けられていますので、人件費等々を含めるとどうしても設備費を切りすぎるを得ない状況で、当初から対前年度マイナス要求になっている訳です。私立大学の経常費補助金についても、対前年度2.3%減の2,770億となっており、また、図書購入申請もできる私立大学の研究費補助金についても、22億円が約20億円の10%減という状況です。しかしながら研究費補助金については、図書とはあまり関係がないが、新たに装置の整備費の補助金が計上され、これは大学だけではなく、短大、高専まで含めて研究設備及び教育設備として、それぞれ2分の1補助となっており、全体の金額で25億円で。但し、これは建物と一体になる様な装置についての補助ですので、図書については適用されません。明年度はどうかとみてもマイナスシーリングが変わる要素はないのではないだろうかと考えています。

したがって先程申し上げました大学全体の56年度の、443億円位の全体的な図書の購入費が、今後減っていくのではないかと、というご心配があるかと思えます。一方、予算が増えているのは科学研究費補助金で、これは380億から395億に増えています。その中で雑誌を購入される先

生方もいらっしゃる訳ですが、これは実際計算の上でどれほど全体金額に反映しているかは定かではありません。基本的な経費は、前述のごとく、経費が全体的に漸減傾向にありますので、443億円という数字は仲々増えないのではないかと考えています。これは、皆様方の売り上げにかかわりある訳ですが、私共の立場にとっても資料充実の問題がある訳です。そういう減額傾向にある状況につき、どの様な形で限られた資源を運用すれば研究に支障が無い様にできるかが、一つの問題になって来る訳です。これは単に予算の減だけではなく、特に自然科学系における資料、特に雑誌の新規購入並びに単価の上昇に対処するという事も関係してきます。各大学におきましては重複図書が非常に多く、また重複雑誌も多いが、これらが国民の税金で賄われていることを考えれば、少数の先生方の専有で利用され、また費用が非常に嵩んでくるとの問題があると指摘が以前からありました。これを解消するにはどうすれば良いか、という問題がありこの様な点を考えますと、従来から各大学で使っていました図書購入費は、決して少なくなかったといえます。ある筋によりますと東京大学の資料の購入費が約9億円位。最大と言われます大学の一つである所のUCLAも9億円位と同じ位です。しかしながら使い勝手からいえば全然異なっており、UCLAであれば9億円が極端に言えば、大学の構成員及びその州の構成員であればとにかく使えるが、東京大学の場合については色々のネックがあって、9億円の資料が大学の構成員であってもスムーズに使えるという状態ではない。これを一体どう解消すれば良いか、という問題も含まれていると思います。従来から大学の図書購入費は、世界的に見て日本の大学は決して少ない方ではないといえます。それと先程443億円といたしました、人文社会系で非常に大きなコレクションを買う経費もある訳です。これについてはそれぞれの大学からの申請を査定して購入している訳ですが、この場合に私共はいつも大学の方を皮肉っております。何かカタログを見て途端に研究テーマを思い出してあれを買ってくれという話になるのではないかと、そうすると先生方の研究の首根っこを押えているのは本屋さんじゃないか。それでは正常な研究というのはあり得ないのではないかと。また、同じコレクションがA大学からもB大学からも値段が違って出て来る。これは世界で一つしかないはずなのに色々なルートによって甚だしく違うな、という問題もできます。これは決して値段を統一しろ

という意味ではありませんが、要するに研究者が、研究テーマを設定するのではなくて、本屋さんが研究テーマを設定するのではなからうか、と考えたくなります。その際には色々と申し上げており、ここにいらっしゃる本屋さんではないのですが、某本屋さんによれば、政治家を動かして、こういう本をどこかの大学に買わせろといわれる方があり、これはどういう事になっているのかと私共は理解に苦しんでいる訳です。大型のコレクションにつきましては色々と売込みが激しいですし、また値段の点も種々問題があろうかと思えます。それらの点については私共は、あくまで共同利用を前提として購入決定して頂いておりますので、それが利用出来る体制にある大学、更にその分野の多くの研究者が存在して研究成果があがり得るであろうという大学を考えております。人文社会系のコレクションですと、買った途端に研究テーマが無残に消失してしまう、というケースがままある様です。ですから私共としては非常に吟味しており、骨董屋的なセンスから買いたいというケースはお断りしている訳です。しかし、手に入りにくい貴重な資料は、次第に入手しにくくなり、特に東南アジア諸国における資料は非常

に手に入りやすく、恐らく手数が掛かって利が薄いのが理由だと思います。これらについては今年位から特別の手段を取ろうと考えており、例えば京都大学に東南アジア研究センターという研究所がありますが、そこはバンコクとジャカルタに分室を持っていますので、所謂現地買付けをしてもらう方法で東南アジア諸国の資料の収集をお願いしております。毎年大体2,000万円位買付けたいと考えております。これらについては東南アジア研究センターにおいて全国大学の共同利用に供する形にしています。また我が国におけるスラブ研究は非常に貧弱であり、その研究図書という物が非常に少ないので、北海道大学にあるスラブ研究センターに特別の経費を計上し、貴重な資料を収集したいと考えています。このように一つの特色あるコレクションを作り、且つそれを全国の共同利用の形で先生方にご利用頂く、という方向でやって行きたいと思っています。それらの観点から考えてゆくとどうしても、個別の問題だけでは解決のつかないことが出て来る訳で、それが本日お話し上げる「学術情報システム」という問題に結び付いて来る訳です。

(つづく)

書籍展示会のお知らせ

アメリカ書店協会展示会

ABA Trade Exhibit, Dallas

1983年6月4日—7日

Singapore—Asean DIDACTA

1983年6月7日—11日

マドリッド・インターナショナル・ブック・フェア

Madrid International Book Fair

1983年10月4日—9日

第35回フランクフルト・ブック・フェア

35. Frankfurter Buchmesse

1983年10月12日—17日

Cannes—Video Communication, Paris

1983年10月15日—19日

TELECOM 83 UIT, Geneva

1983年10月26日—11月1日

ベルグラード・インターナショナル・ブック・フェア

Belgrade International Book Fair

1983年10月27日—11月2日

リオデジャネイロ国際書籍フェア

International Book and Communication Fair,

Rio de Janeiro

1983年11月3日—13日

モントリオール・インターナショナル・ブック・フェア

Montreal—Foire International du Livre

1983年11月23日—26日

お知らせ

株式会社白水社（千代田区神田小川町3丁目24番地）の代表者が4月1日付けで下記のとおり変更になりました。

新、高橋 孝 旧、中森季雄

海外ニュース

英国書籍の出版点数

昨年、過去最高の出版点数(48,307点)を記録し、「歓迎されざる事態」などと評された英国出版界も、1983年に入りようやく鎮静化の兆しを見せ始めた。

第1/4半期(1月～3月)の数字で見ると、昨年同期の出版点数9,982点に対し、今年は9,215点と約8%のダウンである。勿論、第1/4半期の数字だけで1983年全体を結論づけることはできないが、書籍の濫造傾向にある程度の歯止めがかかる可能性があるものと注目されている。(The Bookseller、1983年4月2日号より)

—紀伊國屋書店提供—

総代理店ご案内

丸 善 株式会社 ☎(03)272-7211
British Medical Associationall periodicals
Ann, T.K.—Cracking, the Chinese Puzzles (学習漢語)
5 Vols. (Stockflows, Hong Kong)set ¥50,000
(4月号掲載タイトル価格が上記のとおり変更になりました。)

株式会社 紀伊國屋書店 ☎(03)354-0131(代表)
Proceedings of the 1982 Tokyo Topical Symposium
on High Energy Physics, 7-11 September 1982.
Edited by T. Eguchi & Y. Yamaguchi.
May 1983 450 p.(World Scientific Pub.)SI¥15,360

来日外人名簿

2月下旬 Mr. Hugues Guyon, President, Segur S.A.
Revillon Luvé, Paris
" Mr. Lawson D. Clayton, Export Sales
Director, World International Pub. Ltd.,
Manchester
" Mr. Didier Millet, Managing Director,
Les-Editions Du Pacifique, Tahiti
3月上旬 Mr. Eric de Belleval
Hatier International, Paris
" Mr. Ian Pringle, Export Sales Director,

Pitman Books Ltd., London
" Mr. Charles Orwin, Export Dept.
Faber & Faber, London
3月中旬 Mr. Bleslie Koch, Regional Management,
John Wiley & Sons, New York
" R. Ivor Kemp, Director, Book Promotion
Dept., The British Council, London
" Mr. Michael Turner, Group Managing
Director, Associated Book Publishers
Ltd., London
" Mr. Christopher Helm, Joint Managing
Director, & Mrs. Amanda Helm
Croom Helm Ltd. Publishers, London
" Mr. Richard Charkin, Deputy of Publisher,
Oxford University Press, Oxford
" Mr. Adrian Soar, Managing Director,
Macmillan Publishers
" Mr. B. Leslie Koch, Regional Manager-
Asia, John Wiley & Sons, New York
3月下旬 Mr. Michael Kermian, President, Collier-
Macmillan International, Inc., New York
" Dr. Phua, Publisher,
World Scientific Publishers, Singapore
" Mr. Leslie Rayner, Managing Director,
Applied Science Publishers Ltd.,
Barking, Essex
4月中旬 Mr. Gary L. Cooper, Assistant Sales
Manager, E.W.E.B., Honolulu
" Mr. Malcolm Clarke, Managing Director,
Clarke Associates, Bristol
Mr. Jean-Marie Carpentier, Secrétaire
Général
Mr. Patrick Siry, Redacteur en chef,
Editions Fleuve Noir Département
Groupe des Presses de la Cité, Paris
" Mr. Sal V. Gelardi, Vice President, Interna-
tional Academic Press, New York
4月下旬 Mr. D.H. Michael Bowen, Ph.D., Director,
Books & Journals Div.
Mr. Claud K. Robinson, Head, Market-
ing & Sales, American Chemical Society,
Washington



The Metals Society

英国金属学会発行 新刊のご案内

鉄・非鉄金属の基礎研究から生産・加工・利用に至る最新動向——国際会議論文集を中心に続々発行されています。

●Aluminium and its Future Patterns of Use in Great Britain(1982)

1982年材料フォーラムに提出された7論文収録。..... 40pp ¥8,400

●Developments in Metallurgical Control in Basic Oxygen Steelmaking(1982)

投入と融解のコンポジションを制御、スラグ除去と制御、取鍋処理、スクラップ使用の増加等。
100pp ¥15,750

●Towards Improved Performance of Tool Materials(1982)

'81国立物理研究所との共催の会議で発表された工具材料の革新技術。..... 262pp ¥35,000

●Advances in the Physical Metallurgy and Applications of Steels

'81リバプールで開催の冶金分野の進歩と鋼材利用の進展に関する論文収録。..... 近刊 ¥未定

●Continuous Casting : 4th International Iron and Steel Congress, London, May 1982

連続鋳造の現状と将来についての論文収録。..... 606pp ¥22,750

●Heat Treatment '81

熱処理会議々事録28件を収録。..... ¥35,000

●Mechanical Behavior and Nuclear Applications of Stainless Steel at Elevated Temperature

高温におけるステンレスと原子炉への利用。..... ¥35,000

●Rod and Bar Production in the 1980's (1982)

ロッドとバーの生産技術動向に関する議事録。188pp ¥35,000

●Clean Steel

1981年6月開催の第2回同名国際会議議事録。518pp近刊 ¥21,000

●Ion Assisted Surface Treatments, Techniques and Processes

140pp ¥18,900



尚、まだ発行されていないものについては前以ってご注文された方に、優先的に納入致します。

■ご注文は最寄りの洋書取扱店又は弊社にて承ります。■表示「円」価格は変更されることがあります。

日本 総代理店

SCIENTIFIC TECHNOLOGY INFORMATION SERVICE
USACO.

株式会社 ユー・エス・エシアテックカンパニー

■本 社 ☎105 東京都港区新橋1丁目13番12号 堤ビル ☎東 京(03)502-6471(代表)
■大 阪 ☎530 大阪市北区堂島1丁目2番2号 日昭ビル ☎大 阪(06)344-6624(代表)
■名古屋 ☎461 名古屋市東区榑木町3丁目63番地 ☎名古屋(052)931-2601(代表)
■筑 波 ☎300 土浦市富士崎1丁目7番21号 和光ビル ☎土 浦(0298)23-1773(代表)

昭和58年5月 通巻第193号 洋書輸入協会 編集者 柴田 三夫

☎ 103 東京都中央区日本橋1丁目20番3号 藍沢ビル 603号室 ☎ 271-6901

☎ 530 関西支部 大阪市北区芝田1-10-2 第一山中ビル ☎ 371-5329